

CASBEE[®]新潟 | 評価結果



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要

建物名称	(仮称)新潟万代一丁目計画	
建設地	中央区 万代一丁目2507番1	
用途地域	商業地域、準防火地	
建物用途	物販店、飲食店、工場	
竣工年	2013年10月 予定	
敷地面積	5,966.27 m ²	
建築面積	4,997.95 m ²	
延床面積	32,095.73 m ²	
階数	地上8F	
構造	SRC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2012年4月26日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{60}{31} = 1.9$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.3		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.5
			更新性	3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.5		耐震・免震	3.0
			信頼性	4.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.7		節水	4.0
			リサイクル材の使用	3.0
			再利用可能性向上	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.0		生物環境の保全・創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	4.0		まちなみ・景観への配慮	5.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 1: Q2.1.3-流動の多い店舗用途に対して出入口の維持管理を考慮した風除室の適切な設置
- 2: Q2.2.4-非常用発電機等設置(BCP対応を4階に設定)
- 4: LR1.1-ビジョン部の抑制
- 5: LR2.1.1-節水型便器採用
LR2.2.6-躯体と仕上げが分離可能
- 6: Q3.3.2-適切な舗装箇所の設定
- 7: Q3.2-JR新潟駅より北側へと連続する敷地内高木の保存、駐車場階をセットバックすることで圧迫感を緩和

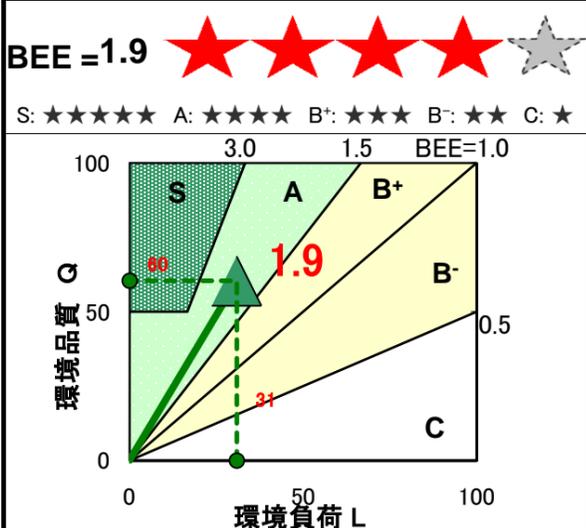
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE®新潟

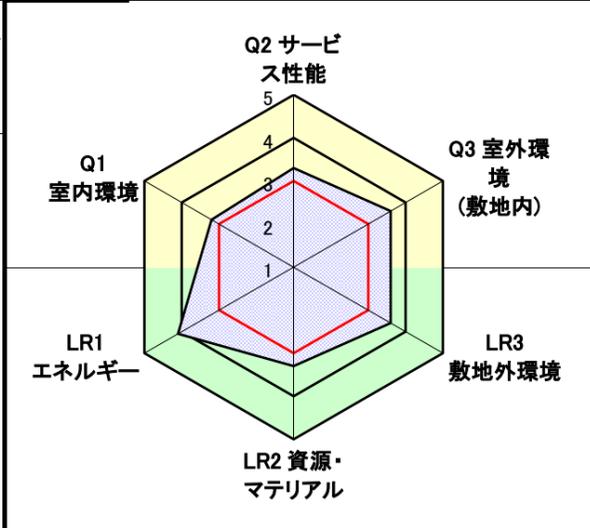
評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

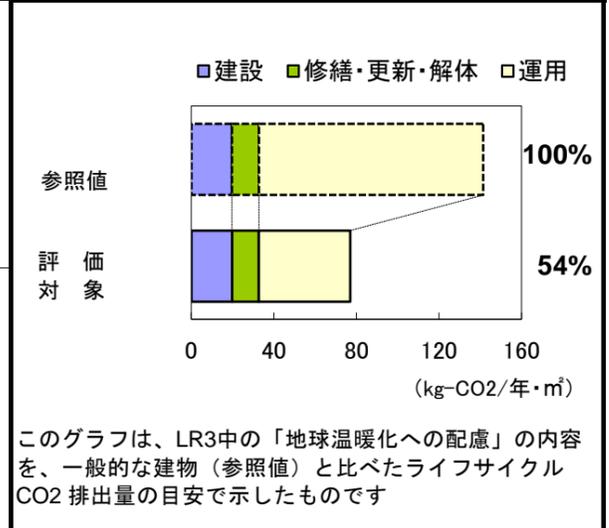
2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



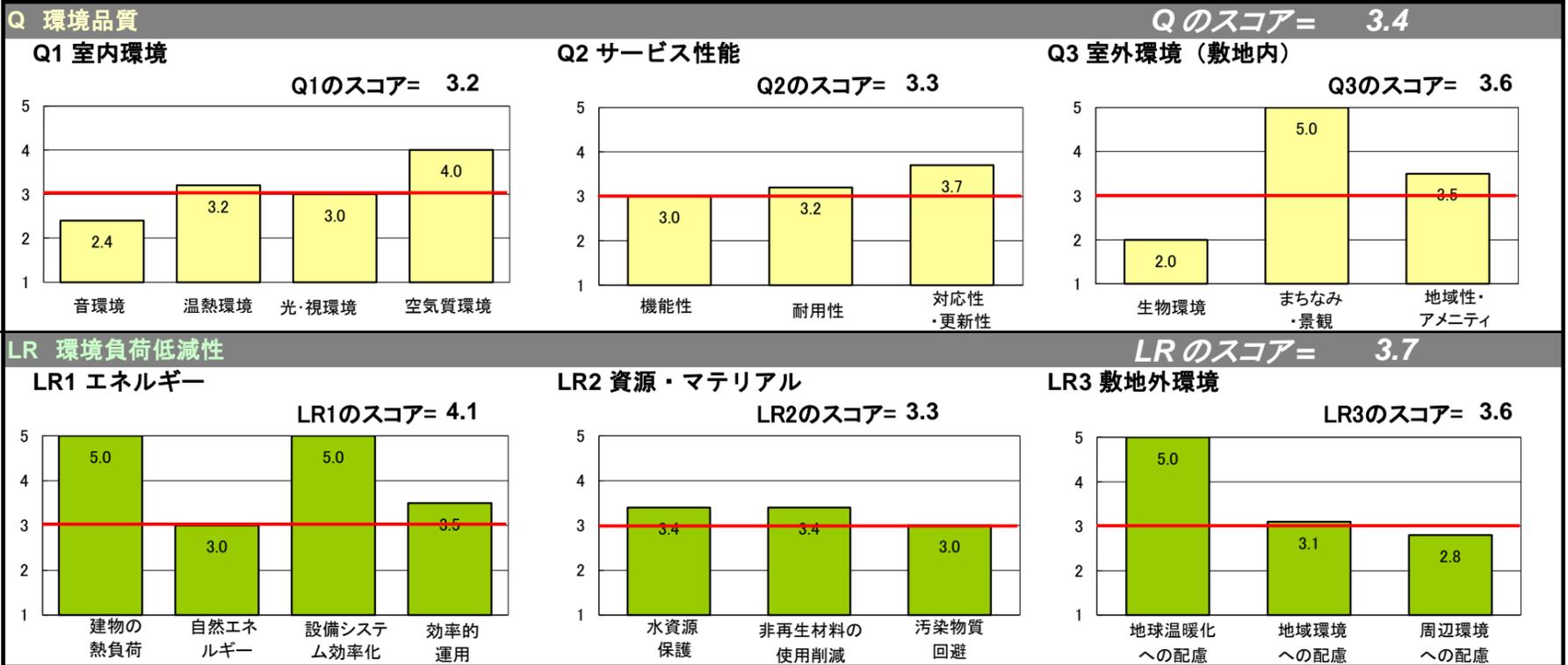
2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合	その他
エネルギー消費の大きい用途上の特性を、駐車場を店舗上階に設置する建物構成と、外壁に高断熱パネルを採用することで外部負荷の低減化を図り、共用部の照明にLEDを採用することで、消費電力、空調負荷を低減し、省エネルギー化を図る。また既存の高木を保存することで万代地区の	万代地区JR北側より連続する敷地内の高木を保存することで、信濃川につながる生物多様性のネットワークを保守する。
Q1 室内環境 外壁を高断熱パネルと断熱性能に優れたパネルにより構成することで熱負荷の低減を行った。外部負荷の低減により室内環境についての省エネ化を図る。	Q3 室外環境 (敷地内) 客用エントランスについては、ピロティ空間を設けて、アメニティの向上を図る。また駐車場階を店舗階外壁面からセットバックすることで、圧迫感の低減。
LR1 エネルギー 運用、維持、保全について建物としてのエネルギー消費について低減を図る。	LR3 敷地外環境 万代地区の景観上重要なケヤキの高木を保存し、木陰による日射遮蔽機能を活用することで、歩行者アメニティ向上と高木によるCO ₂ 削減を図る。
Q2 サービス性能 内装・外装ともに清掃が容易に行えるように計画。清掃器具のスペース確保。建物の維持管理機能を適切に確保し、物販店舗としてのサービス性を	
LR2 資源・マテリアル ハロン消火材の不採用により環境負荷の低減を図る。エコ材の活用により建材の消費に貢献。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される